

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500517	事業の開始年月日	令和1年10月1日
		指定年月日	令和1年10月1日
法人名	株式会社日本アメリティライフ協会		
事業所名	花物語みなみ		
所在地	(〒000-0004) 横浜市南区大岡3-9-27		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ全体の理念は「照一隅」です。1. 次の快適さを求め続ける。2. 介護先進国の日本で将来に向けた体制を構築する。3. 将来不安の払拭と少々難しい文言ですが要は、最初は小さな一つの灯でもやがて周囲に広がり大きな光になるという事です。自施設の理念は「利用者の為に」「地域の為に」「自分の為に」出来る事から少しずつ一歩踏み出す明るいホームです。「照一隅」と同様に自分の為にももちろん、人の幸せを願い「人の痛みがわかる人」「人の喜びが素直に喜べる人」「人に対して優しさ、思いやりがもてる心豊かな人」を目指し職員一丸となり、日々利用者様を支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年11月28日	評価機関 評価決定日	令和3年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京浜急行線及び横浜地下鉄ブルーラインの「上大岡」駅から徒歩で12分のところにあり、周りは自然が豊かな閑静な住宅街です。株式会社日本アメリティライフ協会が前の運営法人から2019年に引き継いで運営を開始しています。

<優れている点>

管理者はホームが立ち上がった2006年から勤務し、その後管理者となりホームの理念を作成して職員に浸透を図っています。地域との関係に積極的に取り組み、町内会に加入したり、包括支援センターにも挨拶をし、ケアプラザの認知症講座でも講師として参加し認知症の知識を広めています。銀行、小学校、看護学校での講義もしています。地域のイベントでは健康福祉祭りの招待を受け、元気な時はタクシーなどを使って利用者全員を連れて行っています。自治会の餅つきや夏祭りにも参加しています。年2回の防災訓練には、消防署員だけでなく地域の住民や家族も参加して利用者の避難を支援しています。看取り介護について指針を入居時、看取りが始まるとき、病状が進行した時のそれぞれについて家族に説明して同意を得て取り組んでいます。これまで多くの利用者を看取っています。

<工夫点>

食事は全て職員の手作りです。週に1回食材の宅配が届き、職員は冷蔵庫の中身を見て、今日は何にしようかと考えています。献立をあらかじめ作るのではなく、その日に利用者の意向も聞いて決めています。イベント食も手作りで、正月のおせち料理は職員総出で作っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	花物語みなみ
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	これまでは事業所の理念に沿って取り組んできましたが、今年度は法人の理念にも目を向け取り組みを一層強化し利用者の為に実践につなげている。ちなみに、法人理念は「照一隅」である。法人理念は毎月の会議で職員に周知している。	2007年に管理者が作成したホームの理念を法人が替わった現在も継続して掲げています。玄関、ラウンジ、事務室に掲示して、毎月の職員ミーティングの開始時に職員が読みあげて共有するようにしています。理念は職員に浸透しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のつながりの為に、地域行事は参加していたが、今年度はコロナの影響で参加は出来ていない。認知症カフェなど楽しみにしていたが、未だに参加できていない状況である。	地域との交流が活発です。自治会連合主催の健康福祉祭りに利用者が参加したり、自治会の夏祭りや餅つき大会にも参加しています。消防訓練には近隣の人が来て支援しています。ボランティアもフラダンスやハーモニカなどでホームの行事の際には来てくれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェや、サポーター養成講座などへ参加し、理解や支援をお願いしていたが今年度は講座などに参加できず市民の方々へ向けての発信は殆ど出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は2か月に1回必ず開催しているが今年度はコロナの影響で2度開催を断念した。しかし行政には書面での開催通知は報告送付している。	運営推進会議は民生委員、地域包括支援センター、家族が参加して2ヶ月に1回開催しています。会議で家族から「職員の名前と顔が一致しない」という意見があり、すぐに玄関ホールに写真を掲示して対応しています。現在は書面で運営状況を知らせています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所の定例会、町内会、GH連絡会への参加はしているが、今年度はコロナの影響で参加は出来ていないがメールなどで密に連絡を取りあい、協力関係は途切れてはいない。	地域包括支援センターから運営推進会議に出席してもらい情報交換をしています。市の認知症サポーター養成講座では管理者が講師として参加しています。横浜市グループホーム連絡会に加入しており、役員として活動し研修やメールなどでも密に連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会は3か月に1度開催している。話し合われた内容は必ず職員に回覧で周知している。また研修も10月に実施予定である。玄関の施錠は夜間のみ施錠している。	玄関は夜間以外は施錠していません。いつでも外に出れ、外に出た場合はセンサーが作動し職員が様子を確認する事が出来ます。身体拘束適正化のための指針を作成し、3ヶ月に1回身体拘束委員会を開いています。話し合った内容は全職員が確認し、研修も行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の徹底はなされている。研修も実施し、虐待のない事業所を目指し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理、法令の研修は実施している為理解はしていると思う。後見人制度を利用している利用者もいる為、権利擁護に関する制度の仕組みや活用を理解し支援できればと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結は管理者が十分に時間とり説明している。又、制度改定や料金変更などが生じた場合もご家族へ文書で送付し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対応マニュアルを法人で設置し、苦情が発生した場合は速やかに対応できるように職員にも周知している。しかし、これまでに1度も苦情は発生していない。ご家族や利用者とは日頃より密な関係が保たれている為、意見があれば直接話せる体制である。	日常的に利用者や家族とコミュニケーションを取り、何でも言いやすい状況を作っています。また、言われたらすぐに対応することとしています。先日も利用者から長袖のシャツを買ってきてほしいとの要望をすぐに家族に伝えて対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで意見交換が出来る体制である。又、半月に1度職員の面談を実施して、管理者に言える体制を整えている。	半年に1回職員と面談をしています。その中で職員の要望を聞くようにしています。最近では新型コロナの対策について意見が多く出され、業務の改善につなげています。また、個人的な職員の要望もできるだけ聞くようにして対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人が職員に対し向上心を持って働ける職場環境、条件を整えているとは思えない。(人員不足、給料水準)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修は1か月に1度はなされている。外部研修は今月から実施している。働きながら資格を取れる制度はある。(奨学金制度)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流はある。他施設に職員が不足なら自施設の職員の応援などを実施し他施設との交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に情報を聞き取り、情報共有は出来ている。入居前にアセスメントを行い職員全員で利用者が良い環境で過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を実施し、要望や困っている事等の意見は聞いている。又、入居後も面会時に情報交換や、現況報告を実施し信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の要望を聞き取りカンファレンスを実施し、必要としている支援を定め、必要なら他のサービスの利用の対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者も職員も家族の一員と捉え、共同生活を基本に出来る事、出来ないことを定め、良い関係づくりを構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に近況報告などを伝え、ご家族とより良い関係を保ち共にご本人を支える関係を築いている。又、面会が困難なご家族様には「みなみ通信」や電話などで報告に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の訪問は多い為、これまでの関係性が途切れないように職員一同支援している。	利用者は地元の人が多く、友人・知人が訪ねて来ています。職員は丁寧に接し、気兼ねなく訪問できるように配慮しています。また、床屋やスーパーにも出かける利用者もいて、馴染みの関係が続くように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性は職員一同把握している。万が一孤立が疑われるなら、席替えや、行事時に隣り合わせないようになどの配慮は行なう。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後もご家族より連絡があれば相談等には応じている。また終了後に施設に立ち寄ることも多々あり馴染みの利用者とは歓談されることもある。しかし昨今のコロナ事情によりこの点も途切れている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人の希望は聞いている為、出来限り意向の把握はしている。例えば、自宅にいた時に毎日コーヒーを決まった時間に飲んでいただ方にはその時間にコーヒーを提供している等。	日常的に利用者の要望や意向を把握するように努めています。カンファレンスで要望や意向を共有しています。サービス計画書では利用者の生活に対する意向、家族の生活に対する意向の欄を設けていて、計画の作成や更新時に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の基本状況を把握し、これまでに聞き取りした生活環境やサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケア確認表、排泄チェック表、日誌や日々の申し送りなどで個々の心身状態は把握出来ている。また異常があれば直ぐに担当医師に連絡できる体制である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1度のミーティングでカンファレンスを実施し、モニタリングをし医師や看護師の意見も取り入れ介護計画書を作成している。	介護計画では長期目標、短期目標を作成し、それに沿ったサービス内容を決定しています。サービス内容は、毎日提供されたかをチェック表で確認し、モニタリング表を参考にしてケアカンファレンスで利用者の状況を把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録、日誌、排泄表、ケア確認表等を参考にし情報を共有している。又、個々の介護計画書は職員の把握が必須の為、計画書は毎日確認しチェックしている。介護計画の見直しはミーティング時に職員で話し合い必要であれば見直しを検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	時々のニーズは職員、家族、利用者、管理者と話し合い、必要があれば施設以外の資源も活用しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの協力を強化し他の資源を活用しながら個々の楽しみが生まれるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前にかかりつけ医継続は可能であることは伝える。施設の往診医で適切な医療が受けられることも報告する。しかし往診医以外の受診希望も可能でその場合の同行は家族であるが困難であれば施設側も対応に応じる。	運営法人が変更になる前から入居していた利用者に変更後に入居した利用者と協力医療機関が異なるため、2つの協力医療機関の医師が訪問し、2週間に1度診療を行っています。看護師が週に1回以上来訪し、健康管理を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の来所時に情報は伝えコミュニケーションは取れている。又、往診医に付き添いの看護師と、訪問看護師の連絡用ノートの活用で適切な往診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師が中心になり連絡調整を行っている。入院中は入院先のケアワーカー、医者、看護師と連携しご家族の意見も考慮し利用者が早期に退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	管理者、看護師、主治医が連携しご家族、利用者の要望を聞き入れながら、カンファレンスを実施し看取りに備えるための研修も行い、皆で利用者、ご家族を支援する。	入居時に重度化や看取りに関する3種類の書面にて説明をし、同意を得ています。体調が変化した際は、看取り介護計画書を作成したうえで、改めて看取りについて家族に確認し、同意を得ています。看取りの実績が多く、終末期を支える体制が整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応の研修は今年度はまだ実施されていない。12月ごろの予定で研修実施予定である。しかし急変や事故が発生した場合の職員の備えはある。事故が発生した場合は事故報告書もきちんと提出されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の防災訓練、非常災害1回の訓練は実施している。訓練時は地域の方も参加できる体制ではあるが今年度はコロナの影響で地域の方の参加はご遠慮して頂いた。	例年は、年に2回夜間想定や風水害の避難訓練を実施し、地域住民や家族が参加しています。今年度はコロナ感染防止のため「避難経路を確保し円滑な避難」と「避難訓練実施マニュアル」について職員全員が座学研修を2度行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけは重要視し常に職員に注意を呼び掛けている。	「待ってて」「座ってて」「ダメ」という3つの言葉は、利用者を否定し指示する言葉と捉え使用せずに、丁寧な言葉で利用者に接することを意識しています。利用者の自己決定権を尊重していて、いやなものはいや、と言えることを大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人に意思確認し本人が意思決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の体調やペースを尊重し口腔、入浴、服薬、起床時間、就寝時間など個々の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容は2か月に1度のペースで実施していたが今年度はコロナの影響であまり利用は出来ていない。服装選びの意思決定は出来る方が少ない為、その日の寒暖などを考慮し職員が選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器のかたづけなどは利用者共に実施しているが、食事の準備は出来る方がいない。しかしテーブル拭きや食器拭きなどは一緒にしている。	職員が選んだ食材が宅配で届き、毎食献立を考えて調理しています。利用者に希望を聞き、ラーメンやハンバーグが出るときもあります。昼食には果物を出すようにしています。行事食は、沢山の手作り料理が並び、家族も一緒に楽しめるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は医師と連携を取り決定している。水分量も個々に決められている為、利用者の状態に合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科、あさがお歯科の両医師と連携を取り毎食後の口腔ケアは欠かさず実施。又、往診の度に助言は受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中のオムツ使用は一人もいない。夜間のみ使用は数人はいるが、日中はなるべく立ち上がりを実施し、トイレでの排泄を目指している。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握して支援しています。日中は利用者全員がトイレで排泄できるよう支援を行っています。寝たきりだった利用者が、1年がかりでトイレで排泄し、立位も取れるようになった改善事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルトを食べている。排便困難な場合は牛乳などから始め、それでも困難な場合は医師と相談して浣腸を使用するときもある。又、運動は朝、毎日実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否の方もいるが、その場合は時間をおいて再度声掛けを実施する。駄目な場合には無理には進めないで翌日にする場合もある。洗身は出来る方は自分で洗って頂く。	週に2回から3回午後入浴が基本ですが、希望があれば午前中入浴もできます。湯船は3人ほどは入れる広さでゆったりと浸かることができます。介護度が高い利用者は、職員2人で介助にあたり、リフトを使用し安全な入浴支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝の時間は決まっていない。健康状態や希望に応じて快適な休息や睡眠が取れるように支援している。(例えばラジオをつけたままや、テレビをつけたまま、照明をつけたまま)など		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は2週間1度薬説明書の確認が必要である。誰がどんな薬を服薬しているか確認できる体制である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみ、食器拭きなど出来る事は皆でやるように心がけている。ボランティア活動も盛んで、時々1・2階合同でイベントを楽しんで頂き、気分転換の支援を実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過の状況で外出支援は出来ない。ただ時々1階の庭でお茶を飲んだりしている。外出はもう少しコロナが落ち着いてからの支援となる。	隣が公園なので、日常的に散歩に出かけています。家族が来た時に外食を楽しむ人もいます。時にはみなとみらい方面へドライブで外出することもあります。現在は新型コロナ感染防止のため、室内で楽しめるレクリエーションに力を入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理はご本人も施設も実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持参している方もいるが、電話は事務所の電話を使用できる。手紙は利用者より預かればポストに入れることは出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音、光、温度は利用者が不快にならないように職員が管理している。生活感や季節感も花を飾ったり、掲示物の工夫などに考慮している。	リビングは床暖房を設置して足元が暖かです。千羽鶴や花を飾り、百歳御長寿の表彰状や利用者の笑顔の写真を掲示しています。事務室と台所はリビングや廊下が見渡せる造りで、職員は常に利用者の見守りと安全に過ごせるように注意を払っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になる空間は居室以外はない。いつもリビングに利用者全員いる。移動は自由ではあるが、自席がある為その場所より動くことはあまりない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前の馴染みの物を使用して頂いている。又季節感のあるように写真や花、掲示物などで工夫はしている。持ち物は居室に治まる程度にしている。	エアコン、照明、ベッド、クローゼットは備え付けです。それ以外は自宅からの持ち込みが基本ですが、防火カーテンとタンクと加湿器はホームでも用意しています。使い慣れた家具や小物に囲まれ、本人が落ち着いて過ごせる居室作りに取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内外は安全に生活できるように手摺などを設置し、なるべく床の段差もないように安全は注意している。利用者の居室には個々が分るようにネームプレートを使用している。		

事業所名	花物語みなみ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	これまでは事業所の理念に沿って取り組んできましたが、今年度は法人の理念にも目を向け取り組みを一層強化し利用者の為に実践につなげている。ちなみに、法人理念は「照一隅」である。法人理念は毎月の会議で職員に周知している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のつながりの為に、地域行事は参加していたが、今年度はコロナの影響で参加は出来ていない。認知症カフェなど楽しみにしていたが、未だに参加できていない状況である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェや、サポーター養成講座などへ参加し、理解や支援をお願いしていたが今年度は講座などに参加できず市民の方々へ向けての発信は殆ど出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は2か月に1回必ず開催しているが今年度はコロナの影響で2度開催を断念した。しかし行政には書面での開催通知は報告送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所の定例会、町内会、GH連絡会への参加はしているが、今年度はコロナの影響で参加は出来ていないがメールなどで密に連絡を取りあい、協力関係は途切れてはいない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会は3か月に1度開催している。話し合われた内容は必ず職員に回覧で周知している。また研修も10月に実施予定である。玄関の施錠は夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の徹底はなされている。研修も実施虐待がない事業所を目指し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理、法令の研修は実施している為理解はしていると思う。後見人制度を利用している利用者もいる為、権利擁護に関する制度の仕組みや活用を理解し支援できればと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結は管理者が十分に時間とり説明している。又、制度改定や料金変更などが生じた場合もご家族へ文書で送付し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対応マニュアルを法人で設置し、苦情が発生した場合は速やかに対応できるように職員にも周知している。しかし、これまでに1度も苦情は発生していない。ご家族や利用者とは日頃より密な関係が保たれている為、意見があれば直接話せる体制である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで意見交換が出来る体制である。又、半月に1度職員の面談を実施して、管理者に言える体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人が職員に対し向上心を持って働ける職場環境、条件を整えているとは思えない。(人員不足、給料水準)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修は1か月に1度はなされている。外部研修は今月から実施している。働きながら資格を取れる制度はある。(奨学金制度)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流はある。他施設に職員が不足なら自施設の職員の応援などを実施し他施設との交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に情報を聞き取り、情報共有は出来ている。入居前にアセスメントを行い職員全員で利用者が良い環境で過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を実施し、要望や困っている事等の意見は聞いている。又、入居後も面会時に情報交換や、現況報告を実施し信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の要望を聞き取りカンファレンスを実施し、必要としている支援を定め、必要なら他のサービスの利用の対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者も職員も家族の一員と捉え、共同生活を基本に出来る事、出来ないことを定め、良い関係づくりを構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に近況報告などを伝え、ご家族とより良い関係を保ち共にご本人を支える関係を築いている。又、面会が困難なご家族様には「みなみ通信」や電話などで報告に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の訪問は多い為、これまでの関係性が途切れないように職員一同支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性は職員一同把握している。万が一孤立が疑われるなら、席替えや、行事時に隣り合わせないようになどの配慮は行なう。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後もご家族より連絡があれば相談等には応じている。また終了後に施設に立ち寄ることも多々あり馴染みの利用者とは歓談されることもある。しかし昨今のコロナ事情によりこの点も途切れている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人の希望は聞いている為、出来限り意向の把握はしている。例えば、自宅にいた時に毎日コーヒーを決まった時間に飲んでいただ方にはその時間にコーヒーを提供している等。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の基本状況を把握し、これまでに聞き取りした生活環境やサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケア確認表、排泄チェック表、日誌や日々の申し送りなどで個々の心身状態は把握出来ている。また異常があれば直ぐに担当医師に連絡できる体制である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1度のミーティングでカンファレンスを実施し、モニタリングをし医師や看護師の意見も取り入れ介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録、日誌、排泄表、ケア確認表等を参考にし情報を共有している。又、個々の介護計画書は職員の把握が必須の為、計画書は毎日確認しチェックしている。介護計画の見直しはミーティング時に職員で話し合い必要であれば見直しを検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	時々のニーズは職員、家族、利用者、管理者と話し合い、必要があれば施設以外の資源も活用しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの協力を強化し他の資源を活用しながら個々の楽しみが生まれるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前にかかりつけ医継続は可能であることは伝える。施設の往診医で適切な医療が受けられることも報告する。しかし往診医以外の受診希望も可能でその場合の同行は家族であるが困難であれば施設側も対応に応じる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の来所時に情報は伝えコミュニケーションは取れている。又、往診医に付き添いの看護師と、訪問看護師の連絡用ノートの活用で適切な往診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師が中心になり連絡調整を行っている。入院中は入院先のケアワーカー、医者、看護師と連携しご家族の意見も考慮し利用者が早期に退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	管理者、看護師、主治医が連携しご家族、利用者の要望を聞き入れながら、カンファレンスを実施し看取りに備えるための研修も行い、皆で利用者、ご家族を支援する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応の研修は今年度はまだ実施されていない。12月ごろの予定で研修実施予定である。しかし急変や事故が発生した場合の職員の備えはある。事故が発生した場合は事故報告書もきちんと提出されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の防災訓練、非常災害1回の訓練は実施している。訓練時は地域の方も参加できる体制ではあるが今年度はコロナの影響で地域の方の参加はご遠慮して頂いた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけは重要視し常に職員に注意を呼び掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人に意思確認し本人が意思決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の体調やペースを尊重し口腔、入浴、服薬、起床時間、就寝時間など個々の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容は2か月に1度のペースで実施していたが今年度はコロナの影響であまり利用は出来ていない。服装選びの意思決定は出来る方が少ない為、その日の寒暖などを考慮し職員が選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器のかたづけなどは利用者共に実施しているが、食事の準備は出来る方がいない。しかしテーブル拭きや食器拭きなどは一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は医師と連携を取り決定している。水分量も個々に決められている為、利用者の状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科、あさがお歯科の両医師と連携を取り毎食後の口腔ケアは欠かさず実施。又、往診の度に助言は受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中のオムツ使用は一人もいない。夜間のみ使用は数人はいるが、日中はなるべく立ち上がりを実施し、トイレでの排泄を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルトを食べている。排便困難な場合は牛乳などから始め、それでも困難な場合は医師と相談して浣腸を使用するときもある。又、運動は朝、毎日実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴拒否の方もいるが、その場合は時間をおいて再度声掛けを実施する。駄目な場合には無理には進めないで翌日にする場合もある。洗身は出来る方は自分で洗って頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝の時間は決まっていない。健康状態や希望に応じて快適な休息や睡眠が取れるように支援している。(例えばラジオをつけたままや、テレビをつけたまま、照明をつけたまま) など		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は2週間1度薬説明書の確認が必要である。誰がどんな薬を服薬しているか確認できる体制である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみ、食器拭きなど出来る事は皆でやるように心がけている。ボランティア活動も盛んで、時々1・2階合同でイベントを楽しんで頂き、気分転換の支援を実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過の状況で外出支援は出来ない。ただ時々1階の庭でお茶を飲んだりしている。外出はもう少しコロナが落ち着いてからの支援となる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理はご本人も施設も実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持参している方もいるが、電話は事務所の電話を使用できる。手紙は利用者より預かればポストに入れることは出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音、光、温度は利用者が不快にならないように職員が管理している。生活感や季節感も花を飾ったり、掲示物の工夫などに考慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になる空間は居室以外はない。いつもリビングに利用者全員いる。移動は自由ではあるが、自席がある為その場所より動くことはあまりない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前の馴染みの物を使用して頂いている。又季節感のあるように写真や花、掲示物などで工夫はしている。持ち物は居室に治まる程度にして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内外は安全に生活できるように手摺などを設置し、なるべく床の段差もないように安全は注意している。利用者の居室には個々が分るようにネームプレートを使用している。		

2020年度

事業所名 花物語 みなみ

作成日： 令和3 年 3 月 10 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	最近のコロナ過で外出支援が出来ていない。緊急事態宣言が解除したら、外出支援に力を入れ利用者の下半身強化の為努力したい。	下半身低下の利用者の脚力アップとそれに伴い、精神面の低下も強化したい。	1週間に3日間外出支援を取り入れる。午前中の30分1人ずつ支援。	12ヶ月
2		今年度はレクレーションが出来ていなかった。これまでは午前中に30分ほど皆でレクを実施していたが業務に追われ全くできていない。	15分でも中身の濃いレクを実施する。新たにレク係を設置し、レク係を中心に取り組む。	レク係選出後、管理者とともに目標に向け具体案を作成。作成後は目標に向けて皆で取り組む。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月